

会報

愛 い っ ぱ い の 一 万 年 ロ マ ン

苫小牧縄文会ホームページアドレス <http://www.joumon.org/>

苫小牧縄文会 2007年 3月 第5号

第2回縄文の夕べ開催

今回の縄文の夕べは、手作りのアイヌ料理を中心に作るこ
ととなり、夏頃から準備が始まった。アイヌ料理に詳しいむ
かわ町の近森さんを中心に、有志の女性により縄文レディス
が結成され、アイヌ料理講習会の参加、メニュー決め、材料
の調達と着々と進められていった。

当日は、会場としてお借りした幸町町内会館に、午後3時に
世話人とレディスが集合し、力仕事は男性が受け持ち、以下
のメニューの調理が始まった。



1: チェブオハウ(魚汁) = 味噌、鮭、ごぼう、人参、大根

こんにゃく、ジャガイモ、長ネギ

2: シブシケブメシ(イナキビご飯) = 塩、米、イナキビ、小豆

3: チポロサヨ(筋子粥) = 米、筋子

4: チタタブ(めた) = 塩、生鮭の頭、白子、長ネギ

5: シト(団子) = イナキビ、上新粉

この他に、鹿の焼肉や刺身などもそろい、約2時間あまりか
かり料理は完成し、参加者25名も集まり“縄文の夕べ”が始
まった

冒頭に、苫小牧駒澤大学の食文化に詳しい金内先生に、ア

イヌ料理の解説をしていただいた。その中でアイヌ料理は汁
物が主食で、お米や雑穀は副食であるとお話を聞き、お米
の取れなかった北海道の食の伝統をなるほどと感じた。途中、
築田氏によるアイヌ語由来の地名当てクイズなどもあり、持
ち寄った酒を酌み交わし、アイヌ料理を堪能した宴会は、会
員同士の親睦を深め、盛会の内に無事終了した。



縄文の夕べ

アンケート調査の比較検討

この会で過去3回の市民向け講演会の開催時において、一
般来場者にアンケートをお願いしてきました。この3回のアン
ケート結果を、紙面にて比較検討してみたいと思います。

設問1・講演会を何で知りましたか？

	新聞	チラシ	ポスター	会員の勧め
1回目	52%	24%	17%	7%
2回目	24%	16%	21%	33%
3回目	25%	25%	0.6%	50%

設問2・苫小牧縄文会を知っていますか？

	知っている	知らない
1回目	67%	33%
2回目	88%	12%
3回目	81%	19%

設問3・静川遺跡を知っていますか？

	知っている	知らない
1回目	71%	29%
2回目	85%	15%
3回目	88%	12%

設問1では新聞の数字が下がり、会員の勧めが50%に達
していますが、口コミで人が集まるということでしょうか。設問
2と3では、この会と静川遺跡の認知度が上がっていますが、
縄文会の活動が少しは貢献していると思いたいです。

苦小牧の遺跡 3 ～ 縄文時代早期・前半期～

苦小牧市立博物館主任学芸員 赤石慎三
縄文時代の最初を飾る草創期。江別市大麻1遺跡で、それらしいとされる破片資料はあるが、はっきりせず、北海道には草創期は無いと見る研究者もいた。平成15年、帯広市大正3遺跡で、待望の草創期の土器がまとまって発見された。今後、資料の増加は見込めるだろう。草創期の土器が発見されたことで、ほぼ同じ頃の土器を伴わない有舌尖頭器文化との関係が注目される。今のところ、苦小牧には草創期の遺跡は見つかっていない。

縄文時代早期はおおよそ9千年前～6千年前までで、前半は貝殻文や沈線文を特徴とする土器が主体を占める。前半の遺跡は、苦小牧最古の土器が出土した有珠川2遺跡、静川2遺跡、美沢東6遺跡など多くはない。現在よりも寒い気候で、それほど生活に適していなかったのかも知れない。

有珠川2遺跡の土器を見ると、平らな底と先端が小さく尖ったがり底(乳房状尖底という)の2種がある。表面には両者とも貝殻を使って、波を打つような文様が描かれている。上半分は黒くすすけている。煮炊きに使われた証拠である。現在、開催中の企画展で2個の土器を展示中。類似の特徴を持つ土器は、伊達市牛舎川右岸遺跡や静内町中野台地B遺跡などで発見され、胆振・日高地方に分布することが知られている。その特徴から、最初に発見された有珠川2遺跡の名をとり「有珠川2式」土器と呼ばれている。有珠川2遺跡では穴が3つ発見されているのみで、はっきりとした生活の跡は見つかっていない。

有珠川2式は、おおよそ9千年前に噴火したとされる最も古い、樽前山の火山灰 d 層の下から発見されている。土器の編年から見ると、それほど古いものとは思われず、火山灰の降下年代について、地質屋と考古屋で認識に違いが見られる。美沢東6遺跡で樽前 d 火山灰層の下を調査する機会があり、この問題を解決しようとしたが、残念ながら明瞭な結果を得られなかった。

用語説明 有舌尖頭器

槍先形の石器の基部に舌のような張出があることから、こう呼ばれている。

遺跡説明 有珠川2遺跡

有珠の沢の奥、高速道路を建設する際に東側の橋脚部分で発見され、昭和53年に北海道教育委員会が調査を行った。

マップ製作過程報告

マップ製作の話が出たのは、5月・6月の「会員と共に考える、これからの苦小牧縄文会」全体会議(於:西小学校)の中であった。当初は中長期のプランとなっていた。しかし、話し合っていく中で、平成19年に静川遺跡の国史跡指定20周年記念行事が行われることが判った。それで、苦小牧縄文会としても何らかの形で参加しようということになり、マップ製作案が浮上してきた。それで、7月の西小での集まりで、近藤(幸)さんをリーダーとして、今年の2月初め迄には完成させるということを決めた。

一番初めに取り掛かったことは、取りあえず、市内から出土した縄文土器の主なものを写真に写そうということであった。それで、赤石先生に選んでいただいて、地下の収蔵庫で近藤(興)さんが写真を撮った。



博物館にて

この様に作業を進める中で、月1回の西小だけの集まりでは足りないということで、土曜日が日曜日の午後には9月から、博物館でも作業をすることにした。初めはロビーでするつもりであったが、博物館のご好意で2階の会議室を貸していただくことになった。

次に、どういう形で展示をするか話し合われたが、なかなかイメージが湧かなかった。マップの大きさにしても、どのくらいの縮尺であれば見やすいのかということも、話し合った。その時丁度、西小の記念行事で展示していた市内地図があって、それを参考にした。

その結果、5万分の1の市内地図を用意してマップ作りは本格的に始まった。それで具体的に何を載せていくか赤石先生のアドバイスを参考に、検討した。

先ず、市内地図の上に資料を置いてみると、非常の煩雑で見にくいことが判った。それで、地図を色分けしようと考えて、顔彩などでやってみたが、どうも巧いかなかった。それで考えたのは、地図の上に載っている地図記号などの情報が多すぎることに気付いた。それで、地図は白紙の模造紙2枚にトレースして主な道路・河川・湖沼・海進海岸線等を書き込むことにした。また色分けは色紙を貼ることにした。これらの大まかなことは、井上さんが引き受けてくれた。それで掲載する写真や資料は、縄文時代の区分に偏りがないように気を付けた。説明書きにテプラーが使えたのは、見やすくなって良かった。マップは二枚に分けたので、どのように展示するか話し合った結果、矢野さんに木枠を作ってもらうことになった。そして2月10日の午後に展示をすることができた。



展示会場

縄文学習班からのお知らせ

縄文学習班は、いよいよ5月から活動を始めます。

その準備として1・2月の西小の集まりで、築田さんと話し合った結果、縄文時代についての基礎知識の共有化が必要と考えました。それでそのテキストを捜すのに、赤石先生のアドバイスを受け、また中央図書館で探し、インターネットにもアクセスしました。しかし北海道の縄文時代のテキストはあまりなく、また古いものが多かったのです。それでも、2001年から順次発行された、北海道の古代についての3分冊の本が見つかりました。少々値が張るので気が引けましたが、

新しい情報も入っているので決めることにしました

それは「北海道の古代 1」野村 崇・宇田川 洋編北海道新聞社刊(¥2,100 税込)で、大まかな目次を示すと次のようになっています。

北海道の成立

旧石器文化

黒曜石の原産地

函館空港遺跡の縄文早期大規模集落

大規模集落の出現 北海道南部の縄文集落

縄文の家とムラそして貝塚

北海道の縄文土器・巨大記念物の謎を探る

北辺の縄文文化。

これらを^{ひとつき}一月毎に1項目ずつ進めていきたいと予定しています。レジュメも作る予定ですので、本のお持ちでない方も来て下さい。

基本的には、毎月第2金曜日の西小学校で、午後6時半から8時頃までの予定です。

小川

予定抄

- 4月15日 第3回苦小牧縄文会総会
- 6月(予定) 博物館講座(出前講座改め)
- 7月(予定) 静川遺跡見学、静川遺跡杭打ち整備
- 10月(予定) 講演会
- 12月(予定) 縄文の夕べ

編集後記

今回の赤石学芸員の連載は、北海道にも草創期の遺跡があるという、最新情報があって今後が一層楽しみになってきました。北海道も本州と変わらず、早い時期からヒトが住んでいたことはその後の文化を改めて考え直すことになるかもしれません。一緒に学んでいきましょう。 会報編集委員会 清野、吉中、小川